

# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」レポート 中村中学校 No.2-①

国語科

令和2年8月31日（月）教材研究会

◆第2学年「あなたのお悩みズバリ！解決します」  
暮らしに役立つお悩み解決集を作ろう」

今年度は、本事業の最終年度となります。これまで2年間積み上げてきた学びを継承しつつ、更にバージョンアップを図りながら、全教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでいる中村中学校の取組を紹介します。



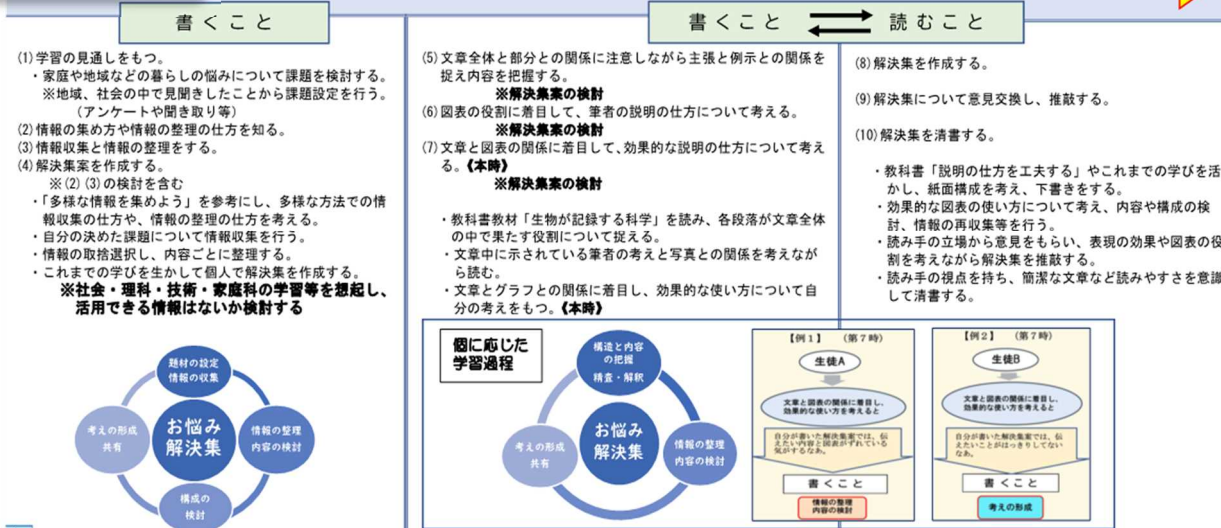
西部管内の  
講座関HP

## 言語活動

◆『あなたのお悩みズバリ！解決します』暮らしに役立つお悩み解決集を作ろう

## 単元計画

基本の学習過程



単元を描く

### ここがポイント①

学習過程の中で「書くこと」と「読むこと」の関連を図り、単元を通して、発信者または受信者として、文章の書き手の意図を考えるように工夫されています。生徒がどのように説明すれば、自分の考えを上手く伝えることができるだろうかという目的意識をもち、教科書教材を検討する中で、その工夫を捉え、自分の文章に生かすことを意図しています。

### ここがポイント②

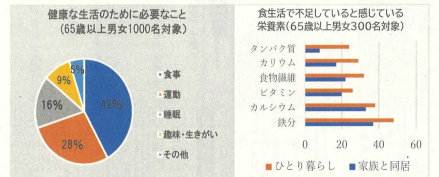
単元計画に「個に応じた学習過程」を組み込んでいます。教科書教材の学びを生かして自分の文章を読み直すことによって、情報収集の不足等、個人個人の課題が明確になります。その後、個人の文章の課題改善を図る学習時間を仕組むことで、よりよい作品に仕上げることができます。

## 深い学びの実現に向けて①

育成したい資質・能力が身に付いた生徒の姿を具体化することが大切です。右のように（一部抜粋）、授業者自身が、設定した言語活動を行い、育成する資質・能力が発揮されるかを確認したうえで、学習過程を考えていく必要があります。

●バランスの取れた食生活ができていますか？

【図表1】を見ると、高齢者の4割は健康な生活を送るために食事が大切だと感じています。65歳以上の高齢者(200名)に普段の食生活は栄養バランスがとれているかどうか聞いたところ、家族と同居している高齢者が8割「栄養バランスがとれている」と感じているのに対し、一人暮らしの高齢者は約5割に留まりました。



## 教材研究会を終えての声

- 各領域が一体化した単元デザインを考え、評価規準等を再考することで、生徒の成長過程が見えるように、学習過程を構造化していきたいです。
- 深い学びを実現するためには、学習過程の工夫が柱になると思います。こうすればこんな学びになる等、学びの具体が分かる学習過程を考えていきたいです。

国語科

令和2年9月28日(月) 授業研究会

◆第2学年 「あなたのお悩みスバリ! 解決します」

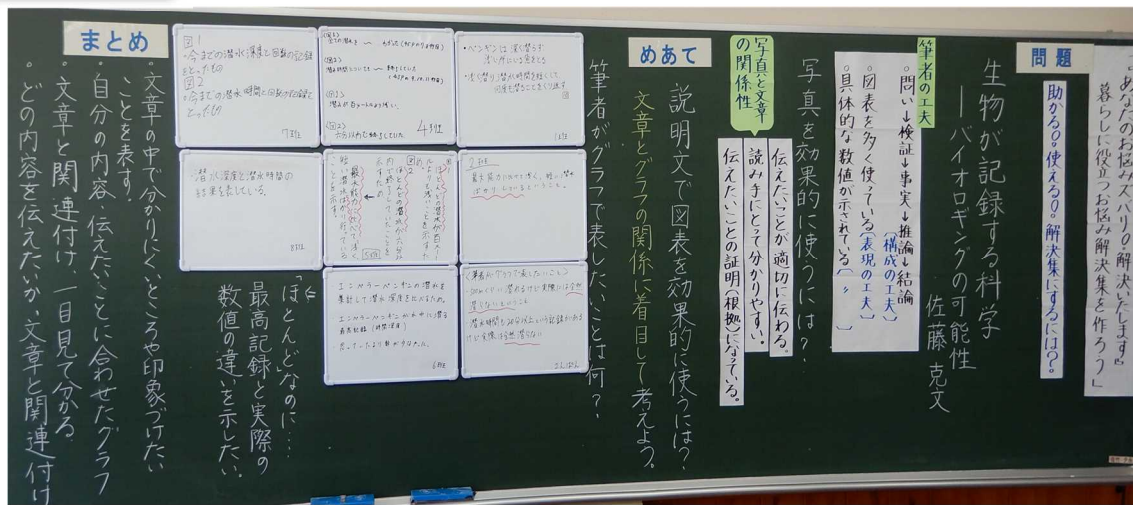
暮らしに役立つお悩み解決集を作ろう」 酒井 薫 教諭



本時の目標

\*文章と図表との関係に着目し、効果的な使い方について自分の考えをもつことができる。

最終板書



ここがポイント③

めあて「説明文で図表を効果的に使うには？」を追究するために、教科書教材「生物が記録する科学」の文章と図表の関係に着目して、筆者が棒グラフを使った意図を捉えていきました。筆者がペンギンの潜水深度の偏りと最大潜水深度を同時に示すために、棒グラフを提示していることが確認されました。その後、前時まで作成した自分の説明文における図表について、各自で検討しました。課題が見つかった生徒からは、「伝えたい内容と合った図表にする」等、改善策を付箋で追記する姿が見られました。



授業を描く

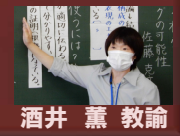
学びを振り返る

深い 学びの実現に向けて②

説明的な文章における図、表、グラフ等の非連続型テキストを捉えたり活用したりすることは、これからの社会を生きる生徒たちにとって、大切な資質・能力です。読み手として、文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読む批判的思考力を育成していくことが大切です。また、書き手として、情報を収集したり、内容や構成を検討したりする情報活用能力の育成を図る必要があります。年間指導計画で指導事項との関連を図り、非連続型テキストをいつ、どのように扱い、指導するのかを明確にしておくことが求められます。

授業研究会を終えての声

- 「書くこと」と「読むこと」をコラボレーションする単元で、生徒が自分で説明文を書きながら、教科書の説明文に戻る授業展開をしていくことが参考になりました。
- 文章を批判的に読むことを効果的に授業に取り入れて、自校の課題である読解力の育成を図っていきたいです。
- 教科書を活用して、生徒が見方・考え方を働かせ、何を学び、どういう力を付けるのかをしっかりと考えて、単元を構想することが大切だと思いました。



酒井 薫 教諭



# 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.1-③

理科

令和2年8月31日（月）教材研究会

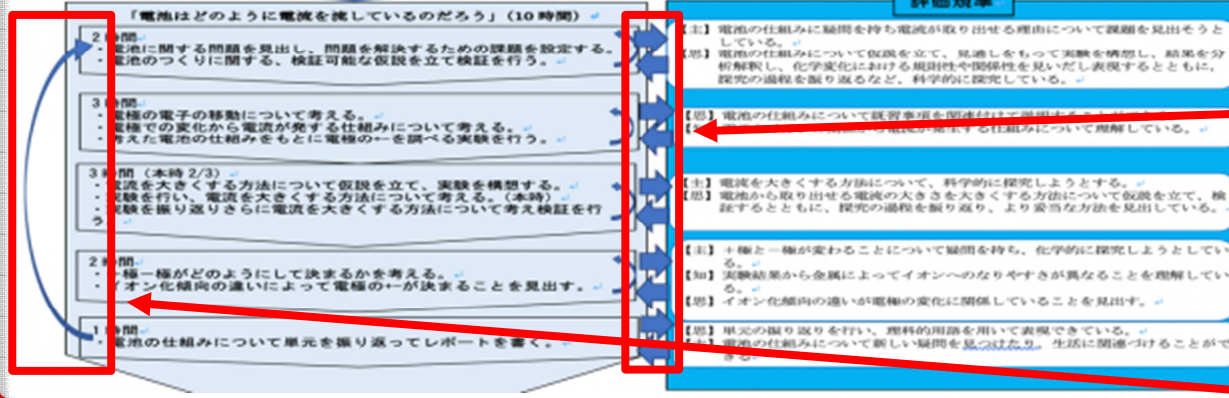
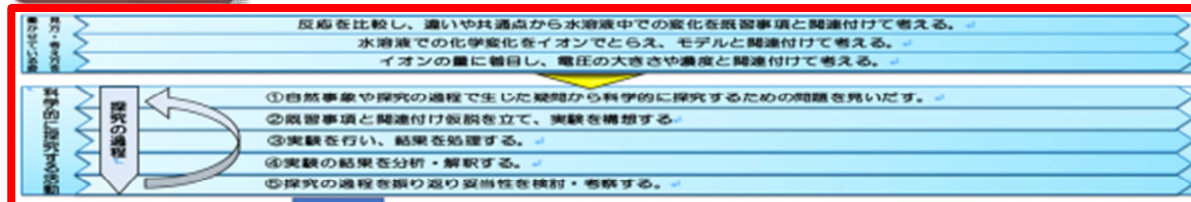
◆ 第3学年「化学変化と電池」



## 単元を貫く問い

◆電池はどのように電流を流しているのだろうか？

## 単元計画



## ここがポイント①

単元を通して探究の過程を意識して作られています。探究の各過程において、これまでの学習で身に付けている「微視的な見方や質的・実体的な見方」、「比較・関連付けるなどの考え方」を働かせて問題を見出したり、根拠のある仮説を立てたりできるように構成されています。このような単元構想をすることで、科学的に探究する学習活動が充実され、生徒が主体的に探究の過程全体を遂行することができます。

## ここがポイント②

課題解決に向けて、各時間において探究活動が繰り返されていくよう計画されています。また、「自分たちの仮説が正しかったのか」、「正しくなければ何がよくなかったのか」、「実験方法がよくなかったのか」、「仮説そのものが間違っていたのか」といった、探究の過程を振り返る活動に重点が置かれています。このような活動を繰り返すことで、科学的に探究する資質・能力が育成されるとともに、主体的に探究活動が実現できます。

単元を描く

## 深い学びの実現に向けて①

理科における「深い学び」の実現に向けては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、理科の見方・考え方を働かせながら探究の過程を通して、育成を目指す資質・能力を獲得していくように授業をデザインすることが重要です。そのためには、本単元で生徒が働かせる見方・考え方や育成を目指す資質・能力を明確にすることが大切です。つまり、上記のような単元計画を立てることが理科の深い学びの実現に向けて重要になります。また、資質・能力の育成を図る授業をデザインするだけでなく、その資質・能力が生徒に身に付いているのかを評価し、指導の改善に生かしていくことも欠かせません。

## 教材研究会を終えての 声

- 大きな視点で捉え、生徒が探究活動をしていけるように単元を構想していきたいです。また大きなゴールを達成するために、小さなゴールを設定して活動を深めていきたいと思います。
- 教科書の内容をただ教えるのではなく、単元を通して設定した資質・能力の育成に向かって授業を構成することの大切さが分かりました。



理科

令和2年9月28日(月) 授業研究会

◆ 第3学年「化学変化と電池」 野村 憲太教諭



## 本時の目標

\*水溶液中のイオンの量や電極のイオン化傾向の違いに着目して、より電圧が大きい電池を作るためにどうすればよいか科学的根拠を基に考え、検証することができる。

## ここがポイント③

化学電池の電流を大きくする方法について、金属板の種類や組合せ、電解質水溶液の種類など要因に着目し、自分たちで仮説を立て、実験方法を立案することを前時までに行っていました。本時では、計画した実験を探究の過程を繰り返しながら、自分たちで進めていく生徒の姿が見られました。また、問題を自分事として捉え、目的をもって実験に取り組む姿や、生徒が実験の見通しを持つことで、自分たちの仮説と実験結果の一致、不一致を意識して考察する姿が見られました。このように探究の過程を生徒自身で進めていくことができるよう、単元を構想し、日々の授業を展開していくことがポイントになります。



## ここがポイント④

生徒が仮説を意識しながら実験を行うことで、各班の探究活動後には、「自分たちの仮説と結果が違っていたね。何が間違っていたのかな?」「仮説は合っていたけど、もっと大きな電流にするにはどうしたらよいか?」「金属板ではなく、電解質を塩酸に変えてみたら?」というように実験結果と仮説の一致、不一致を明確にし、電流をより大きくするために仮説や方法を改善するなど、探究の過程を振り返る姿が見られました。このように主体的に探究する活動を通して、新たな問題を見出そうとするなど、生徒の感性や知的好奇心が育まれていきます。



授業を描く

学びを振り返る

## 深い学びの実現に向けて②

「深い学び」については、理科の見方・考え方を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得する授業になっているかが重要になります。本時において、生徒が「金属板の種類を変えてみたら?」など仮説、実験方法を振り返っている姿が見られました。その際、「金属の種類を変えるけど(変える条件)、金属板の大きさや厚さは同じにしよう(変えない条件)」というように「条件を制御する」理科の考え方を働かせているかを教師が評価し、指導の改善につなげていくことが大切になります。

## 授業研究会を終えての声

● 探究の過程を振り返る場面は最後の段階だけかと思っていたが、それぞれの過程で行うことが重要ということが授業を参観してよく分かりました。

● 仮説を立てることの大切さを認識するとともに、仮説の再検討を自分たち自身でできるよう、単元を構想し、日々の授業でも探究の過程を意識させながら指導していきたいです。

● 単元構想の際、探究の過程を重視してきたことで、今回の授業では生徒自らが探究の過程を振り返る姿を見ることができました。協議でいただいた意見を踏まえ、見方・考え方を生徒自らが働かせることができるようにし、探究の質を高めていけるよう授業改善を行ってまいります。



野村 憲太 教諭